

臨床検査医学科

● スタッフ（2022年10月1日現在）

診療科長 木内 英
 医局長 四本 美保子
 病棟医長 村松 崇
 外来医長 萩原 剛

医師数 常勤 16名
 非常勤 2名

● 診療科の特徴

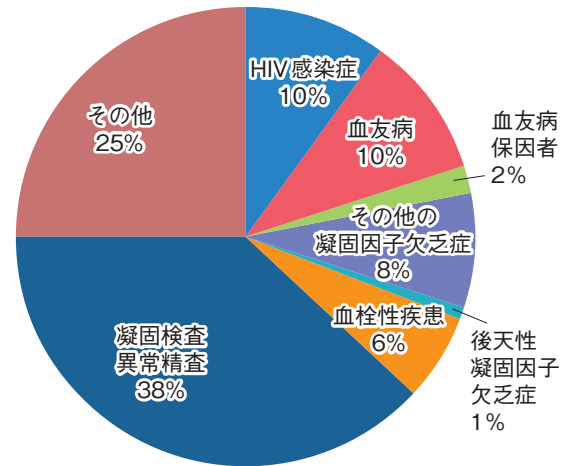
血栓止血異常、HIV感染症、輸血診療を専門とする。血友病では関節内出血、筋肉内出血、脳出血などの出血予防と止血管理、または手術にともなう止血管理をおこなう。血友病性関節症は整形外科やリハビリテーション科とともに診療している。血友病保因者の遺伝相談と研究レベルの遺伝子解析検査も行っている。血友病Aに対するⅧ因子代替抗体製剤の皮下注射の導入を行っている。新規血友病治療製剤の治験を行っている。血友病以外の先天性凝固止血異常、後天性凝固止血異常も対象疾患である。HIV感染症は診断された患者を対象としている。2022年度の新規患者は72人であり、現在約1,600人が通院している。HIV/AIDS関連性疾患としてはニューモシスティス肺炎、サイトメガロウイルス感染症、カポジ肉腫、非ホジキンリンパ腫、非結核性抗酸菌症などの日和見疾患から、治療の長期化・感染者の高齢化による生活習慣病や悪性腫瘍の治療も関連各科と連携しつつ提供している。輸血診療としては主に各科の術前自己血貯血を行っている。

● 診療体制と実績

2022年度外来初診患者は671人。自己血貯血初診316人を除いた初診患者の内訳はHIV感染症36人、血友病35人および血友病保因者7人、その他の凝固因子欠乏症が29人、後天性凝固因子欠乏症が2人、血栓性疾患が23人、凝固検査異常精査依頼が135人、その他が88人であった。

2022年度主科入院件数は79件。内訳はHIV感染症が22件、血友病を代表とする先天性凝固異常症が29件、後天性血友病を代表とする後天性凝固異常症が3件、その他が25件であった。

2022年度外来初診内訳
 （自己血貯血を除く）



2022年度入院診療内訳

